阪本だより

令和５年　１２月　第３５０号

中央区立阪本小学校
中央区日本橋兜町 15-18
TEL.03(3666)0044　FAX.03(3668)2366

一緒に表現することを楽しもう

副校長　森島　健次

学校教育において、子どもたち一人一人が自分の思いを表現することはとても大切なことです。そして表現するだけではなく、他人の思いを受け止め、共感したり、ときにはそれぞれの思いをぶつけ合ったりすることも大切です。その中で成長していく子どもたちを支えていくのが我々大人の役割だと思っています。小学校では、様々な活動をおこないますが、その中でも多くの子どもたちの成長が感じられるのは、行事などでクラスや学年、全校児童が一つの目標に向かって真剣に取り組んだときです。仲間たちと一緒に表現活動をする中でその楽しさを実感することができたとき、それは子どもたちの一生の宝物になるのではないかと思います。

一緒に表現を楽しむといっても、ただなんとなく一緒にやって楽しいということではありません。本気で一つのことに取り組み、自分たちで作り上げたという喜びを得るということです。その体験が大きな自信となり次へ向かう意欲になります。その時に保護者の皆さんや地域の皆さんからの拍手や賞賛の言葉があると喜びは更に大きくなります。

私が直接関わることができた活動の中でも、子どもたちが本気になった（私は「スイッチが入った。」という言葉で表現しました。）瞬間を見ることができました。

それは、学芸会の練習中でした。ある児童は役に対する思いもあり自分のやりたかった役をオーディションで勝ち取ることができたのですが、きっと照れくささもあり、もう一歩を踏み出すことができず、思い切った演技ができずにいました。もっとできるはずなのにと思いながら何回かの練習の様子を見ていました。その時は、何かのきっかけで自分の中の心のリミッター（安全装置）をはずすことができたのでしょうか、それまでとは違った気持ちのこもった素晴らしい演技ができました。すかさず「今スイッチ入ったよね。」と聞くと、嬉しそうに頷いてくれました。他の子もつられるようにスイッチが入り、本番に向けて全員が熱心に練習に取り組み、見事に演じきることができました。

表現をしながら、みんなの気持ちが一つになったと感じられることもあります。チームでプレーするスポーツで、仲間の動きに合わせて自然と体が動き、自分のやるべきことに集中できるということがあります。合唱をしているときに、みんなの声が重なり合って響き、よい意味でゾクッと身震いが起こり、最高の表現ができていると実感できることもあります。よく言われる「ゾーンにはいる。」「よいアドレナリンが出ている。」、某漫画でいう「全集中」の状態にあるということなのでしょうか。こんな体験ができると忘れられない最高の思い出になります。

150周年記念式典の中でも、会場全体が子どもたちの歌声や演奏に包まれたとき、司会をしていた私にも、似たような感覚が湧き上がってきました。自然と目頭が熱くなってくるのを感じました。150周年にふさわしい全校児童の表現だったと誇らしい気持ちです。

今年度残された大きな行事と言えば、3月22日（金）の卒業式ですが、式の最後となる「校歌斉唱」で児童、保護者の皆様、地域の皆様、そして我々教職員も本気で歌い、心が震える校歌で卒業生を送り出したいと思います。

生活目標	保健目標	給食目標
物を大切にしましょう。	換気に気をつけましょう。	食べ物の働きを考えて食べましょう。